

5. 2GHz 帯及び 6GHz 帯無線 LAN 作業班（第 17 回）議事概要（案）

日時：令和 8 年 3 月 30 日（月）10:00～10:50

場所：Web による開催（Webex）

出席者

- （1）構成員：梅比良 正弘（主任）、村上 誉（主任代理）、青木 良太、足立 朋子、安藤 憲治、池亀 旅人（代理出席）、石田 和人、石原 周、今井 一博（代理出席）、大濱 裕史、小竹 信幸、加藤 康博、木村 亮太、國吉 裕夫、久保 一哉、小橋 浩之、小林 佳和、佐藤 英一、城田 雅一、惣谷 道夫、高田 潤一、鷹取 泰司、富樫 浩行、留場 宏道、成瀬 廣高、能木場 裕也、菱倉 仁、平松 正顕、福元 暁、船井 一宏、三島 安博、宮崎 太郎
- （2）質疑対応：（一社）電波産業会 無線 LAN システム開発部会 浅井 裕介、ソニーネットワークコミュニケーションズ（株）古市 匠
- （3）事務局：基幹通信室

議事概要

1 開会

2 議事

（1）前回議事概要（案）について

■事務局より、資料「作 17-1」に基づき説明。質疑等はなく、承認された。

（2）陸上無線通信委員会報告書案について

■事務局より、資料「作 17-2」及び「作 17-3」に基づき説明。やり取り等は以下のとおり。

小竹構成員：SP モードの EIRP は親局 4W、子局 1W の搬送波となる。SP モードの不要発射の強度を実測する場合、ダイナミックレンジの確保が難しいのではないかと。搬送波が LPI モードより十数 dB 大きくなることに合わせて、ダイナミックレンジも十数 dB 確保する必要があると考える。技術試験事務等で不要発射の強度の測定を行った事例があれば教えていただきたい。

古市氏：技術試験事務等でも SP モードの不要発射の強度の測定は行っておらず、現時点で出せるデータもない。

小竹構成員：了。今後関係者の方にも御協力いただきながら測定の準備を進めていく。

梅比良主任：アッテネータを使用して抑えるのはどうか。

小竹構成員：測定において、レベルの高い搬送波は切れないため、近傍の周波数成分が測れない。必要であれば測定に特別仕様のフィルタを用いることも考えている。

城田構成員：不要発射の強度の測定データについては、弊社内を探せば見つかるかもしれない。必要があれば提出できるかもしれないので、連絡してほしい。

小竹構成員：了。

事務局：総務省としても、今後 TELECOM 等の認証機関と相談しながら適切な測定法を決めていくことを想定している。

佐藤構成員：報告書概要（案）のスライド 19 について、今回の共用検討は、レーダーの許容干渉量を基準とした検討ではなく、既存の規格を基準として検討を行ったという認識なので、文言を修正して欲しい。

城田構成員：既存のレベルを干渉基準として、それを許容干渉量として記載している。概要版なので端折って記載しているが、報告書本体には基準等正しい検討内容を記載している。概要版の当該箇所について、既存の隣接チャネル漏洩電力の値を干渉基準としている旨の記載へ修正すれば良いかと思う。

佐藤構成員：了。

事務局：御意見を踏まえて修正する。

浅井氏：報告書本体から引用する形で、概要版と本体で整合性を取れば良い。

（3）その他

- 事務局から、4/6（月）まで報告書案の照会を行う旨及び本件を陸上無線通信委員会（4/17）で報告する旨の連絡があった。

3 閉会

以上